

〔普及の現場から〕

岡山和牛推奨子牛（おかやま四ツ☆子牛）を育てよう

購買者に求められる和牛子牛づくりの推進

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 飼養技術研究室
生産性向上研究グループ 長尾伸一郎

飼料価格や生産資材費の高騰により、畜産農家の経営は大変厳しい状況です。このような状況のなかで、購買者が求める発育良好で、粗飼料をしっかりと食い込み、腹の良くできた優良子牛の安定供給を図り市場全体の価格を向上させる必要があります。

そのため平成20年9月に「岡山県子牛資質向上対策協議会」を全農、農協、県、畜産協会、農業共済、人工授精師協会等で立ち上げ「岡山和牛推奨子牛（おかやま四ツ☆子牛）」（以後四ツ☆子牛）の認定を行い、優良子牛育成の推進を行っています。畜産研究所では当協議会の作業部会として子牛の体測数値等のとりまとめを行っていますので紹介します。

1. 四ツ☆子牛について

認定を初めて2年になり、かなり認知されていますが、改めて認定の基準を示します。なお、基準は子牛セリ市場回数が減少したことにより本年度から一部変更されています。

四ツ☆子牛の基準

出荷日令 雌 225日以上～285日未満
去勢 215日以上～275日未満
体高・胸囲 全国和牛登録協会が示す発育基準の1σ以上
腹囲と胸囲の差 22cm以上
過肥でないこと
著しい瑕疵、損傷がないこと

2. 平成21年度の成績

平成21年4月～22年3月の10回の子牛市での成績を紹介します。

10回の子牛市で、上場された牛は2,875頭で、このうち2,807頭を測尺しています。体高が1σ以上のものは1,034頭で上場された子牛の36.0%に当たります。このうち胸囲が1σ以上のものが751頭でした。腹囲と胸囲の差が22cm以上のものは513頭で、この牛が認定基準の日令、体高、腹囲胸囲差をクリアしたものです。この513頭を過肥、瑕疵、損傷のチェックを行い193頭が推奨子牛に認定され適合率は6.7%（去勢9.3%、雌3.2%）になります。

子牛体測結果 頭、%

項目	去勢	雌	計	割合%
上場頭数	1,642	1,233	2,875	
測尺頭数	1,614	1,193	2,807	
体高1σ以上	717	317	1,034	36.0
胸囲1σ以上	509	242	751	26.1
腹囲胸囲差22cm以上	351	162	513	17.8
四ツ☆子牛	153	40	193	6.7

体測でクリアし、その後のチェックで四ツ☆子牛に認定される割合は37.6%(193頭/513頭)と低い状況でした。

四ツ☆子牛に認定されなかった理由を表に示しました。複数の要因がある場合もありましたが、一番多いのは、過肥で47.2%と半数近くを占めており、次いで肩、背、爪の順で、手入れ・管理の不備も1.6%ありました。手入れ・管理、爪は出荷前の一手間で改善することが可能

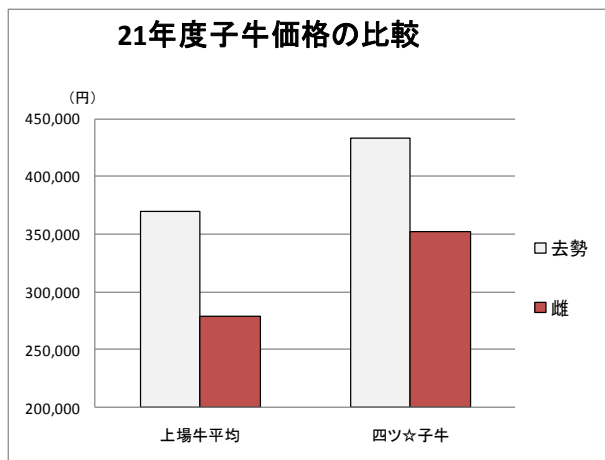
であり、過肥も飼養管理で改善可能ですので、非常にもったいないことだと思われます。

四つ星最終判定落ち理由

理由	割合%
過肥	47.2
肩	12.8
背	6.9
爪	5.6
体型	2.2
体積	2.2
手入れ・管理	1.6

3. 四ツ☆子牛の市場成績

四ツ☆子牛の平均価格を四ツ☆子牛を含む市場全体の子牛平均価格と比較しました。去勢では四ツ☆子牛 432,933 円、市場全体で 369,481 円、価格差 63,452 円、雌ではそれぞれ 352,156 円、279,156 円、73,528 円でした。優良な子牛を選抜しているの価格が高いことは当然ですが予想以上の価格差がありました。



4. 協議会の活動方針

協議会では、四ツ☆子牛の適合率の当面の目標を 30%においています。21 年度の適合は 6.7 %と低く、特に雌では 3.2%と非常に低い成績でした。22 年度は適合率 15%を目標におくことを総会で決定しました。この目標を達成するために、各地域部会で、それぞれ活動方針を決め取り組んでいます。その内容は、重点指導農家への飼養管理指導、体測による発育状況の農家自身への認識喚起、研修会の実施等です。また、

雌子牛の適合率を向上させることが、重要であると考え、協議会では優秀な雌子牛を育成している農家の飼養管理技術を調査分析し、他の農家へ技術普及を行うことにより少しでも適合率が上がるよう指導していくこととしています。

また、体測で基準に適合し、最終チェックで認定されない牛を少しでも減らせるように、牛体や爪の手入れの重要性を生産者に理解してもらおうと共に、協議会の指導者の技術を向上させるための勉強会も実施していくこととしています。このように生産者、指導者が一体となり四ツ☆子牛の適合率が上がるよう取り組み、生産者自身が体測を行い、子牛市当日は、その確認を当協議会が行うようになる程意識が高まることを望んでいます。

併せて、四ツ☆子牛の肥育成績が揃うようになってきているので、枝肉成績と四ツ☆子牛の基準の関係を分析し、より購買者に好まれる子牛の育成がすすむよう取り組むこととしています。